



さいたま市立与野南小学校

【児童数】計332名

電話 831-0157



学校ホームページ

正面から向き合うこと

校長 土屋 智樹

1月13日(土)、本校で青少年育成会与野南地区会主催のお正月のつどいが開催されました。当日は、本校の児童をはじめ、大戸小学校、鈴谷小学校の児童の皆さんも参加し、大変な賑わいとなりました。子どもたちは、お正月の行事の体験や地域の方々・他校の児童との交流を深めることができました。これも、青少年育成会の皆様をはじめ、地域、PTAの皆様方の尽力によるものです。心より感謝申し上げます。

1月18日(木)学校運営協議会で、子どもたちのコミュニケーション力について熟議をしていた際に、「子どもたちの中には、トラブルを避けようと過度に人との関係を避けようとする傾向が見られる」と話題になりました。何とか解決しようと努力したものの、どうしてもうまくいかずに、いったんその人と距離をおくことも時には必要ですが、最初から人との関係を断つことは、果たして本当にいいことだろうかと考えます。また、「小さな失敗も許されない」「正解が常に求められる」そんな社会を反映してか、トラブルだけでなく、失敗を避けようと新しいことに挑戦することに躊躇する子どもたちも増えてきているように思います。これは、子どもたちだけでなく、私たち大人にも言えることではないでしょうか。

さて、学校運営協議会の日に、「1月20日未明にJAXA(宇宙航空研究開発機構)の小型月着陸実証機(SLIM)が、月面着陸に挑戦する」というニュースを目にしました。月着陸に成功すれば、米国、旧ソ連、中国、インドに次ぐ世界で5か国目の快挙だそうです。日本初の成功に日本中が大きな期待を寄せ、その後、各テレビや新聞などでSLIMの挑戦に関する特集が報じられていました。その中で、月面着陸に挑むことについてJAXA開発責任者の坂井真一郎プロジェクトマネージャーのインタビューが目にとまりました。坂井氏は、「SLIMは、当初の計画から今回の着陸挑戦までおよそ20年かかり、途中、搭載するロケットが小型ロケット「イプシロン」から大型ロケット「H2A」に変わるなど計画の変更を余儀なくされた。ロケットが変わることに伴って、SLIMの見直しが必要になるなど検討に時間がかかり、前に進んでいるような気がしなかったこともあったが、技術的な課題を1つ1つ乗り越えてここまでたどり着いた。」とこれまでの開発を振り返っていました。SLIMが目指している「ピンポイント」での着陸は世界初だそうです。これに成功すれば、探査したい場所への自由自在な着陸が可能になり、月面探査の急速な進展につながるそうです。今回の挑戦に携わった多くの人々が、ピンポイント着陸が今後必要となる技術だと確信して、この挑戦に挑んだのだと思います。その後、SLIMは月面に見事着陸しました。失敗を避けようとして挑戦しなければ、月面着陸の挑戦は生まれてこなかったでしょう。失敗や困難を恐れずに挑戦することの大切さを改めて知りました。

先日、4年生の人間関係プログラム「対立を解消しよう」の授業を参観しました。振り返りの感想に「(相手とけんかにならないようにするためには)相手に納得してもらうよう説明すること」と書いている児童がいました。トラブルを避けず、対話をもって解決しようと考えたこの児童のことをとても頼もしく思えました。私たちは、失敗やトラブルに正面から向き合ってどうすればよいのか考えることのできる子に育てることがどれだけできているのでしょうか。私自身、つつい嫌なことに逃げてしまいたいと思うことがあるのですが、そんな自分の弱さに負けず、真摯に物事に取り組む姿勢を子どもたちに見せていけたらと考えています。



お正月のつどい